

2026年5月19日（火）
愛知県立大学
学務部学務課国際文化研究科
コミュニティ通訳学コース担当 卞・中島
電話 0561-76-8824

国際刑事裁判所（ICC）法廷通訳人を講師に迎え 司法通訳セミナーを開催します

愛知県立大学大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コースでは、日本通訳翻訳学会研究プロジェクト「社会インフラとしてのコミュニティ通訳研究：研究者・実践者・行政の（国際）連携」との共催により、オンラインセミナーを開催いたします。

■ 開催概要

日時：2026年5月31日（日）17:00～19:00（日本時間）

題目：国際刑事裁判所（ICC）における普及が限定的な言語（LLD）の通訳人の役割：公平性と中立性

講師：ジョセ・ククル・カピंगा・ルワ 氏

（国際刑事裁判所（ICC）法廷通訳人・特定状況言語対応調整官）

言語：英語（日本語への同時通訳および日本手話通訳あり）

開催方法：オンライン（Zoom ミーティング）

参加費：無料

定員：200名（先着順）

後援：愛知県立大学多文化共生研究所

参加方法：事前申込制となっております。以下の URL よりお申し込みください。

https://zoom.us/meeting/register/mVr_3Mt-SMe7gFwWjAN6Cw

お問い合わせ：愛知県立大学学務部学務課国際文化研究科コミュニティ通訳学コース担当

E-mail: community-renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

TEL: 0561-76-8824

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3

共催

愛知県立大学国際文化研究科
日本通訳翻訳学会研究プロジェクト
「社会インフラとしてのコミュニティ通訳研究：研究者・実践者・行政の（国際）連携」 オンライン司法通訳セミナー

国際刑事裁判所（ICC）における普及が限定的な言語（LLD）の通訳人の役割：公平性と中立性



参加登録



講師 ジョセ・ククル・カピंगा・ルワ氏

国際刑事裁判所（ICC）法廷通訳人・特定状況言語対応調整官

司会 吉田 理加（愛知県立大学）

日時： 5月31日 17時から19時（日本時間）

講演：17時～18時 ディスカッション：18時～19時

参加費： 無料 事前申し込み要 定員 200人 先着順
QRコードからZOOMミーティング登録サイトにアクセスし、お申込みください。

同時通訳有り： 日本語・英語、日本語・日本語手話

https://zoom.us/meeting/register/mVr_3Mt-SMe7gFwWjAN6Cw

【講演要旨】

今日、国際刑事司法の場において、普及が限定的な言語（LLD）の通訳者はどのような役割を担うべきか」という問いがしばしば提起される。また、そのような通訳者は、国際刑事裁判所（ICC）のような複雑な司法制度の中で、どのように自らの役割を果たしているのだろうか。講演者はICCにおいてフィールド通訳人、法廷通訳人、そして普及が限定的な言語（LLD）の通訳者の訓練官として19年間の業務経験を有する。講演者は通訳等の経験を通して、様々な司法手続を経験した。

本発表では、複雑な国際刑事司法や、普及が限定的な言語（LLD）の通訳人の役割について、聴衆の理解を深めることを目的とし、守秘義務に抵触しない具体的な事例を紹介し、国際刑事司法という複雑な環境で通訳人として働くことが、心的外傷後ストレス障害（PTSD）の発症につながる可能性があることや日常生活にどのような影響を及ぼすのかについても説明する。そのような心理的課題にどのように対処すべきかについても考察したい。最後に、法廷内外において用語（ターミノロジー）がツールとなることについて、講演者の経験を共有する。

お問い合わせ

愛知県立大学国際文化研究科准教授コミュニティ通訳学コース

吉田 理加 E-mail:r-yoshida(a)for.aichi-pu.ac.jp

(a)を@に変えてください。

文部科学省人文社会系大学院ネットワーク構築事業
「多言語多文化社会で必要とされるコミュニケーションデザイン能力を有する専門職人材の共同育成」

後援：愛知県立大学多文化共生研究所